希学園　第393回　公開テスト　新小6　国語　2025年2月9日実施　【模範解答】　制限時間50分

1

1 a 加工　b 試算　c 後者

2 最終処分場

3 ウ

4 A 無　B 見　C ふ

5 I ウ　II ア　III イ（完答）

6（記述題）

7 I 新たに～難しい（完答）　II 残渣の～す方策（完答）

8 X 残余年数　Y ごみの減量（完答）

9 という

2

1 a 勝手　b 不毛　c 下火

2 A づ　B し　C 固　D と

3 すじちがい

4 I 母　II 帰って（完答）

5 エ

6（記述題）

7 X 頼り　Y 甘や（完答）

8 自分でできる

9 I エ　II ア　III イ　IV ウ（完答）

10（記述題）

11 イ

1

6 現在ある最終処分場を延命化させていくための方策。（同意可）

2

6 伯母の発言で、自分はいらないから置いていかれたと改めて思い知らされショックを受けたから。（同意可）

10 家に置き去りにされた自分を重ね合わせて（同意可）

［配点］

1	1	14
その他	1	6
2	2	12
	2	6
	10	

各2点×13＝26点
各6点×3＝18点
各4点×14＝56点

希学園　第393回　公開テスト　新小6　国語　2025年2月9日実施　【解説】

1 [1]

1　a「加工」は原料や元になる製品に手を加えて新しいものを作ること。b「試算」は試験的に行う計算。c「後者」は二つ並べて言ったもののうち、あとの方のもの。対義語は「前者」である。

2　本文二行めの「では、この当たり前が成立するのは何故だろうか」という問いかけの答えでもあり、この文章の話題でもある。

3　――線②の直前の「その先にある最終処分場は山の中や海上といった人目に付かない場所にあるため」に注目しよう。「人目に付かない」のでごみが最終的にどうなるかがわからないということである。

4　Aは直前の一文の「限りがある（有限である）」から考える。Bの「見立てる」は仮定するという意味。Cの「ありふれた」はめずらしくないという意味。

5　いずれも、最終処分場が簡単に作れない理由の補足になっている。第一～第三の並列の最後に【　】があることから、第一～第三それぞれの内容をふまえて考えよう。

6　――線③を含む一文を読んだうえで、直前の一文に注目しよう。「現在あるそれを延命化させていくしかない」の「それ（＝最終処分場）」の指す内容を明らかにしたうえで「ための方策。」という文末にうまくつながるようまとめよう。「それ」の部分を直前の「新たな最終処分場」としてしまうと「現在ある新たな最終処分場を延命化する」となりおかしいので、直前の言葉を安易にそのまま使わないように気をつけよう。

7　自治体による最終処分場を延命化させていくための策の欠点について答えるということであり、その内容は（中略）よりあとに書かれている。◎の文もヒントになっているので注目しよう。一つめの「さまざまな制約があるので」という内容は、最終処分場が簡単に作れない三つの理由が述べられているところの直後（このような制約から）にある。二つめの「コストがかかる」という内容は「残渣の搬入量を減らす方策」として採られている「可燃ごみの焼却残渣（灰）の資源化」について書かれている部分の最後にある。

8　[X]・[Y]を含む段落の最後の一文に「[Y]に積極的に取り組む必要がある」とほぼ同意の「ごみの減量に積極的に参加していく必要がある」があるので、[Y]には「ごみの減量」がはいる。[X]は、新たな最終処分場が簡単に作れず、また「可燃ごみの焼却残渣（灰）の資源化」がコストの関係でなかなか進まない中でも現存の最終処分場の残余年数がどんどん減っていっている現状において意識すべきことなので、「残余年数」がはいる。

9　◎の一文から、「3R（Reduce、Reuse、Recycle）」という用語について書かれているところのあとに戻せばいいとわかる。

1 [2]

1　a「勝手」は、ここでは建物の中や場所などのありさま。b「不毛」は何一つ実りのないこと。c「下火」は物事の勢いが弱まること。

2　Aの「行きづまる」は物事が困難に出会ってその先に進まなくなること。Bの「しぶしぶ」は心が進まずいやいや行うさま。Cの「意固地」はかたくなに意地を張ること。Dの「とげとげしい」は態度や言葉づかいが荒くてきつい感じを含んでいるさま。

3　「すじちがい（筋違い）」とは、見当違いという意味である。ここでは、「伯母は悪くない」と理解し、伯母のおかげで生活が成り立っていることもわかっていながらも、「一家の主婦然として家事をとりしきっている伯母」に腹を立てている。本来ならば感謝しなければならない相手に腹を立てているので「筋違い」なのである。

4　母が家を出ていってしまったあと「日がな家にひきこもっていた」信介は、母がいなくなったことに相当なショックを受けていたと考えられる。そんな時に両親の寝室から音が聞こえてきたら、母が戻ってきたのではないかと考えるだろう。

5　まず、ブラウスを持っている伯母を見た信介の「それ、お母ちゃんの……」という発言に対しての返答なので、ブラウス（服）のことを言っているとわかる。また、伯母が「姿見の前に立ち、うぐいす色のブラウスを胸にあてていた」こと、「たんすの抽斗が引き出されて、見覚えのある洋服が畳の上に何枚も放り出されていた」ことから、母の服の中から気に入ったものを取り出して自分に似合うか試している様子がうかがえる。

6　服に対する伯母の「いらないから、置いていったんでしょ」という発言を信介が「そのとおりだった。いらないものを母は全部置いていった。夫も息子も、家も仕事も」と受け取っていることから、自分が母にとって不必要な存在だと考えてしまったと読み取れる。「絶句している」理由を聞かれているので、マイナスの心情も答えに盛り込もう。

7　[X]・[Y]を含む一文の直前に「伯母の言葉に、いっそう愕然とした」とあるので、伯母の「そうそう…けっこう甘やかされたみたいで」という発言の中からさがせばよい。[X]・[Y]を含む一文の直後の「それからは、気をひきしめた」にうまくつながる内容になるように答えをさがそう。

8　――線⑤を含む一文から、いつもは伯母に助力をあおいでいないことがわかる。「本文中のここより前の部分」で、伯母の手を借りないようにしている場面に注目しよう。

9　このような問いでは、前の空らんから順番に記号を入れていくのではなく、確実に答えが決まるところから入れるようにしよう。【　Ⅲ　】の先生の発言を受けて「ニャータンを知ってるんですか」と信介が返しているので、ここにはイがはいる。【　Ⅰ　】の先生の発言に対して信介が「はい」と答えていることから、ここにはエがはいる。【　Ⅳ　】は「先生が、急に子どもっぽいことを言い出した」発言なので、ウがはいる。

10　姉が置いていったコンパスのことだけでこのような気分にはならない。――線⑥の直前の「いらないから、置いてったんだ」という発言が、母のブラウスを胸にあてた伯母の放ったひとことの引用であることに気づきたい。この伯母の発言を受けて信介は、自分は母に置き去りにされたことを痛感し、それをずっと引きずっているのである。

11　先生が姉の置いていったニャータンのコンパスについて「大切だから置いていくってことも、あるでしょう」と言い、まるで宝物のように大切に扱ってくれたことを受けて、コンパスと重ね合わせている自分も大切に思われたように感じたのである。

以　上